ライフサイエンス

魚肉由来たんぱく質の摂取による認知機能低下予防効果

用途・応用分野

認知機能の維持を目的とした魚肉たんぱく質を含む機能性食品の開発

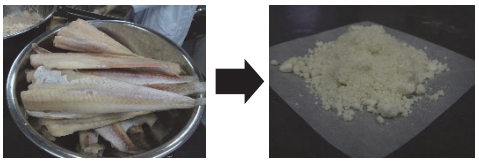
本技術の特徴・従来技術との比較

認知機能の低下予防には、運動習慣やバランスの良い食習慣など総合的な取組が重要である。魚肉に含まれるエイコサペンタエン酸・ドコサヘキサエン酸といった脂質成分の健康機能が有名であるが、**魚肉（スケトウダラ）由来たんぱく質成分に認知機能低下を予防する効果**を見出した。この技術は、日本人の伝統的食材である魚肉を利用した機能性食品の開発につながり、**食を通じて日本人の健康維持に貢献**できる。

技術の概要

スケトウダラたんぱく質の摂取による加齢に伴う認知機能低下予防効果を動物実験で確認

●魚肉たんぱく質の調製

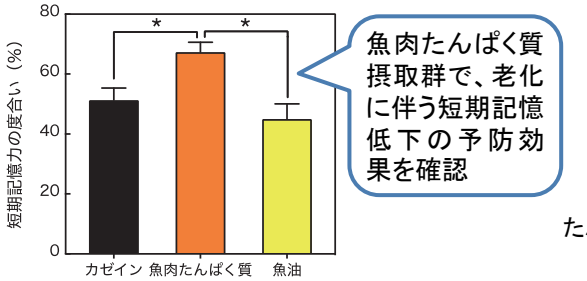


スケトウダラ　　スケトウダラたんぱく質（魚肉たんぱく質）

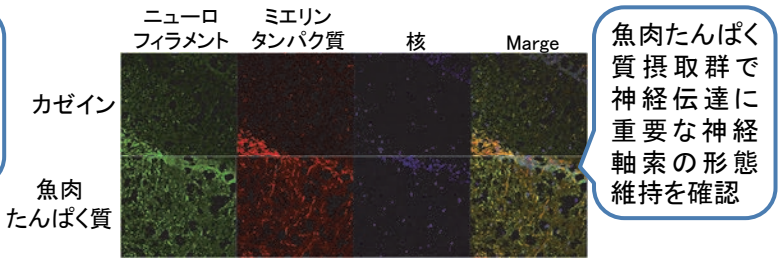
●動物実験



図① 脳機能の評価（Y字型迷路試験）



図② 海馬の免疫染色



特許・論文

＜特許＞

「脳機能改善用、又は神経変性疾患の予防及び／又は治療用の組成物」（特開2022-067319）

研究者

細見　亮太・福永　健治
化学生命工学部 生命・生物工学科
食品栄養化学研究室

村上　由希（関西医科大学 医学部）

お問合わせ先　関西大学 社会連携部 産学官連携センター
TEL：06-6368-1245
MAIL：sangakukan-mm@ml.kandai.jp